

3 キャンドルのつどい

(1) ねらい キャンドルを囲み、厳粛さと楽しさの織りなす感動的な交歓を通して、集団宿泊生活の思い出を印象深いものにするとともに、友情を深め、連帯意識を高めさせる。

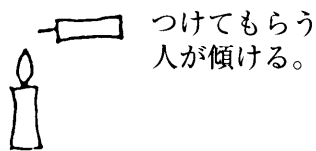
(2) 事前指導・準備

- 児童・生徒：身軽な服装，班の出し物に必要な小道具類
- 引率者：班編制，進行計画，必要な小道具，救急薬品
- 所員：しょく台設営，シート設置，ろうそく，ろうそく台，ワイヤレスマイク，アンプ，火の神・巫女の衣装，必要な楽器（ギター，アコーディオン，オルガンなど），竹べら
- その他：準備物全般については，事前に所員と打合わせをしておくことが望ましい（CD，MD，カセットデッキは所が準備）

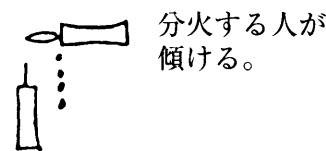
(3) 指導上の諸注意（引率者）

- プレイホールの照明（水銀灯）は，一度消灯してしまうと次の点灯までに15分程要するので，進行計画を十分に立案しておく。
- 進行の手順（集合，入場，基本プログラム，退場）と対応の仕方を全員によく説明しておく。進行の手順については，活動資料の活動展開例や進行要領を参照すること。
- 役割分担（火の神，火の巫女，火の守，司会，実技リーダーなど）について，十分に打合わせしておく。役割分担については，活動資料の役割分担表を参照すること。
- プログラム進行中，キャンドル場では歌集などは見えにくいので，歌唱する歌詞を覚えさせておく。歌唱指導しておく歌については，活動展開例の表中を参照すること。
- 歌などの全体練習，出し物の練習，進行手順の打合わせなどの時間を事前に十分とったり，入所後に一定時間を割り当てたりしておくことが大切である。各班の出し物については，5分程度が望ましく，班員全員の協力によって進めさせる。
- 儀式の厳粛さや交歓の楽しさを盛り上げるための雰囲気づくりに対して，約束ごとを十分に話し合い，参加者全員の意欲を高めておくことが大切である。
- 危険防止のために，ろうそくの取り扱い方について十分に指導しておく。
 ※ろうそくを目線の位置で持ち，周囲にも十分気をつける。
 ※正しい分火方法を守り，やけどやけがなどをしないように十分に注意する。
 ※分火する時は，ろうそくを床に落とさないように注意する。
 ※ろうそくを振り回したり，炎を下向きにして持ったりしない。
 ※ろうそくの火は口で吹いて消さずに，手のひらで上から下へ風を送って消す。

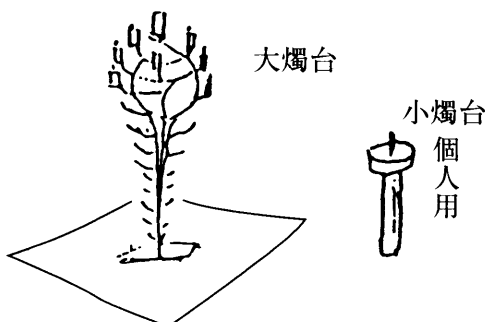
○正しい方法



×誤った方法



(4) 活動場所



- 原則としてプレイホールが会場となる。
- 2団体がキャンドルのつどいを計画している場合
 人数の多い団体：プレイホール
 人数の少ない団体：第1研修室

活動資料

(1) 役割分担例

役割名	分担者	仕事内容
火の神 (営火長)	引率者代表 1名	<ul style="list-style-type: none"> ● 第1部で「火の神のことば」を言う。 ● 第1部で分火係に分火し、誓いの言葉を聞く。 ● 第3部で、営火長として分火係に分火する。
火の巫女	児童生徒 1名	<ul style="list-style-type: none"> ● 第1部で聖火をもって、火の神を先導しながら入場する。 ● 第1部で火の神に聖火を渡す。
分火係	児童生徒 4～5名	<ul style="list-style-type: none"> ● 第1部で火の神から分火をうけて、誓いの言葉を言う。 ● 「点火」の合図で営火台に点火する。 ● 第3部で、営火長から分火をうけ、班員に分火する。
結びのことば係	児童生徒1名 (数名でもよい)	<ul style="list-style-type: none"> ● 第3部で「結びのことば」を言う。
進行責任者	引率者1名	<ul style="list-style-type: none"> ● 進行計画と役割分担計画を作成する。 ● 事前準備、プログラム進行、後始末などを指導する。
司会者	引率者1名 <small>※児童生徒が一部 分を司会する方法もある</small>	<ul style="list-style-type: none"> ● 第1部～第3部までの司会をする。 ● 儀式の厳粛さや交歓の楽しさの雰囲気づくりに努める。
実技リーダー	引率者数名	<ul style="list-style-type: none"> ● 歌唱、ダンス、ゲームなどの事前準備や事前指導をする。 ● 第2部で実技をリードする。
レク係	児童生徒 各班の係	<ul style="list-style-type: none"> ● 班の出し物の計画、練習の中心となる ● 各班の出演順を相談する。 ● 第2部で、各班の出し物で班員をリードする。
火の守	引率者数名	<ul style="list-style-type: none"> ● 営火を守る。 ● 焚き物を追加したり、終了後、火の後始末をする。
会場係	引率者数名 児童生徒 各班の係	<ul style="list-style-type: none"> ● 必要な用具の借り出し、返納をする。 ● 火の神や巫女の着替えの世話をする。 ● 会場の後始末をする。

※上記は役割分担の1例であり、各学校の規模や実情に応じて役割の内容や人数を計画することが望ましい。

※火の神・巫女の衣装については当所で用意してあるが、他の衣装を持ちこんで使用するのも、着用しないで進行するのも各学校裁量によるものとする。

(2) 活動展開例

段階	活動内容	児童・生徒の活動と活動への支援	備考
準備 20分	1. 集合し、説明を聞く。 2. 移動する。	<ul style="list-style-type: none"> ● 班ごとに集合し、人員を確認する。 ● つどいの手順や心得、トーチやろうそくの取り扱い方などの注意を聞く。 ● 火の神と巫女は所定場所で準備する。 ● トーチを持つ場合は灯油をつける。 ● 入場順に整列し、無言で待機する。 	<ul style="list-style-type: none"> ● つどいの広場に集合する。 ● 足下に気をつけて移動する。

段階	プログラム	内 容	備 考	
第 一 部 迎 え 火 の 儀 式 25 分	1. 入 場	<ul style="list-style-type: none"> ●司会者を先頭に無言で入場し、営火台（大しよく台）を囲んで円形に並ぶ。 ●かがり火ファイヤーの場合は所定の座席に静かに座る。 	<ul style="list-style-type: none"> ●トーチやろうそくは後方に置く ●火の神と巫女は所定の場所で待機する。 	
	2. 開 会	●司会者が「火を迎えることば」を言う。		
	『昼間、みなさんの活動のようすを見守ってくれていた太陽が遠く西の水平線のかなたに沈み、ここ牟岐少年自然の家にも、ようやく夜のとばりが訪れました。心静かにまぶたをとじると、みなさんを励ますかのように打ち寄せる波の音が聞こえてきます。ともに手を組み、心を合わせ、力強い仲間の輪を築くために、ここに集う〇〇小（中）学校のみなさん。みなさんの元気な歌声で聖なる火を迎えましょう。』			
	3. 迎え火の歌	●全員で「遠き山に日は落ちて」を歌う。		
	♪遠き山に日は落ちて 星は空をちりばめぬ 今日のをぎをなしおえて 心かろく安らえば 風はずしこの夕べ いざや楽し まどいせん♪ ※火の神が所定の位置につくまでハミングで歌う。 ※「赤とんぼ」「夕やけ小やけ」などの歌を歌ってもよい。			
	4. 火の神入場	<ul style="list-style-type: none"> ●火の巫女がトーチ（聖火）を捧げて火の神を先導して入場し、円陣の内側を回って所定の位置まで行く。 ●火の神が所定の位置についた時、火の巫女はトーチ（聖火）をかかげて火の神を照らす。 	●全員無言で厳粛な雰囲気を保つ。	
	5. 火の神の話	●火についての話や、キャンプの意義についての話をする。		
	『私は大島に住む火の神である。今日、〇〇小（中）学校のみなさんが集まると聞いて、この聖なる火をもって大島からやって来た。 火は遠い昔から人間に生きる喜びや勇気を与えてくれた。火はみずからを焼きつくしながら光と熱を私たちに与えてくれる。火は私たちの生命とも言えるものである。数千年の昔から私たちの祖先は、火を守りながら、ある時は物をつくることを発見し、また明るく照らすことを考えてきた。私たちも祖先の偉業を受け継ぎ、この闇夜を照らす炎のように世の中に明るさと希望をもたらしていきたい。』			
	6. 分 火	<ul style="list-style-type: none"> ●司会者の合図で分火係は火の神の前に出て一列にならぶ。 ●「分火」の合図で、火の神は火の巫女からトーチ（聖火）を受け取り、分火係に一人ずつ分火する。 	<ul style="list-style-type: none"> ●全員無言で厳粛な雰囲気を保つ。 ●点火用トーチ（ろうそく）を持っていく。 	
	7. 誓いのことば	●分火後、分火係は一人ずつトーチ（ろうそく）をかかげて誓いのことばを言う。		
『ぼくは、この宿泊訓練で奉仕する心の大切さを学びました。』 『私は、これからの生活の中で友達と仲良くしていきます。』 『ぼくは、みんなで力を合わせて生活していこうと思います。』など。 ※誓いのことばは、分火してもらった直後に一人ずつ言ってもよい。 ※かがり火キャンプファイヤーの場合は、4～7を省略して営火長による点火のみの進行をする方法もある。				
8. 点 火	<ul style="list-style-type: none"> ●最後の分火係が誓いのことばを言った後、各分火係は営火台（大しよく台）を四方から囲んで、トーチ（ろうそく）をかかげて立つ。 ●「点火」の合図で、分火係は四方から一斉に点火する。 	●キャンプファイヤーの場合は、低い姿勢で点火する。		

段階	プログラム	内 容	備 考
第一部 迎え火の儀式 25分	9. 炎の歌	●全員で「燃えろよ燃えろよ」を歌う。	
		♪ 1. 燃えろよ燃えろよ 炎よ燃えろ 火の粉をまき上げ天までこがせ 2. 照らせよ照らせよ 真昼のごとく 炎ようず巻き闇夜を照らせ 3. 燃えろよ照らせよ 明るく熱く 光と熱とのもとなる炎♪ ※「若者たち」「ふるさと」などの歌を歌ってもよい。	
	10. 火の神退場	●司会者の合図で、火の神は火の巫女とともに、円陣の内側を回って退場する。 ●火の神が退場する時は、歌を歌って送り出し、続いて2～3曲を全員で歌い、第1部のしめくくりとする。	●歌を歌わずに送り出してもよい。
第二部 交歓のつどい 50分	1. 司会者のことば	●第2部（交歓のつどい）の始まりを告げる。	●照明をつける。
		『点火された火が、みなさんの友情の火、団結の火として燃え続けることを願いながら、火の神は去って行きました。 この火の大きさに負けないように、これからの時間はみなさんの力強い出し物で、友情の輪をもっともっと広げていきましょう。 待ちに待った「交歓のつどい」のはじまりです。』	
	2. 各班の出し物	●司会者、演技者、火の守以外は座る。 ●各班で計画した出し物や実技リーダーのゲームなどを混ぜながら、交歓のつどいをすすめる。 ●交歓のつどいでの約束を守って、雰囲気盛り上がるように指導する。	●実技リーダーによる全員演技を取り入れる。 ●前もって各班の出演順を決めておくこと能率的に進められる。
第三部 送り火の儀式 15分	1. 司会者のことば	●全員トーチ（ろうそく）を持って起立し円陣を整えた後で照明を消す。 ●送り火の儀式に入ることばを言う。	●かがり火の時は、何も持たない。
		『楽しかった今日の活動のすべてが終わろうとしています。夜もすっかり更けてきました。静かに目を閉じて、一日の活動を振り返ってみましょう。 ♪ なごりはつきねど まどいは果てぬ 今日のひと日のさち 静かに思う ♪ （司会者が歌う） ゆっくり目を開けてください。楽しいつどいの間、私たちを見守ってくれた炎は、今静かに消えようとしています。このつどいを閉じるにあたり、無事に一日を終えられたことを互いに喜ぶとともに、感動を与えてくれたすべてのものに感謝の心を持ちたいものです。では、送り火の儀式に移ります。』	
	2. 分 火	●司会者の合図で営火長は営火台（大しょく台）の前へ位置する。 ●「分火」の合図で、分火係は営火長の前に整列し分火してもらう。 ●分火係はもとの列に帰り、左右の者に分火する。 ●分火を受けた者は、横の者に次々と分火し、火の輪をつくる。	●無言で行動する。 ●正しい方法で分火できるようにする。
	3. 別れの歌	●全員で「ひと日の終わり」を歌う。	
		♪ 1. 星影さやかに 静かにふけぬ つどいの喜び 歌うは楽し 2. なごりはつきねど まどいは果てぬ 今日のひと日のさち 静かに思う♪ ※「今日の日はさようなら」「見上げてごらん夜の星を」などの歌を歌ってもよい。	

段階	プログラム	内 容	備 考
第三部 送り 火の 儀式 15分	4. 結びのことば	●児童生徒代表は、営火長の前に立ち、トーチ（ろうそく）をかかげて結びのことばを言う。	●ペンライトを用意する。
		『みんなが力を合わせ、楽しく過ごしてきた牟岐少年自然の家での生活も、明日でいよいよお別れです。目の前の火は、私たちの心に明るい希望と力強い仲間の存在を焼きつけてくれました。私たちは、楽しい思い出とともに、この光の輪、友情の輪を心にきざみ、いつまでも仲良く、励まし合って、これからの学校生活を送っていきたいと思います。これで、○○○○○を終わります。』	
	5. 別れの歌	●全員で「今日の日はさよなら」を歌う。	
		♪ いつまでも 絶えることなく 友達でいよう 明日の日を夢見て 希望の道を ♪ ※続きをハミングで歌う。 ※「ひと日の終わり（星影さやかに）」「若者たち」「螢の光」「見上げてごらん夜の星を」などの歌を歌ってもよい。 ※かがり火キャンプファイヤーの場合は、2～3を省略して、歌を歌って退場に移る進行方法もある。	
6. 退 場	●ハミングとともに司会者を先頭に退場して行く。 ●出口でトーチ（ろうそく）の火を消し、所定の場所に整理整頓する。	●正しく火を消せるようにする。	

※上記は活動展開の1例であり、各学校の規模や実情に応じて進行プログラムや言葉などを計画することが望ましい。

(3) 活動終了後の指導（引率者）

段階	活動内容	児童・生徒の活動と活動への支援	備 考
片付 20分	1. 集合し、説明を聞く。 2. 後始末をする。 3. 活動終了の報告をする。	●後始末についての説明を聞く。 ●借用した用具は、数などを確認してもとの場所に返納する。 ●営火台の火は、十分に消火を確認する。 ●ろうそくはしよく台からはずし、空き缶に入れる。 ●トーチは翌朝まで、指示された場所に置いておく。 ●すべての活動が終了した時点で事務室の所員に連絡する。	(指示すること) ●翌朝の清掃時に床のろう落としをする。 ●キャンプファイヤー、かがり火ファイヤーのとき翌朝の清掃時にタオルの詰め替えと火床の始末をする。

(4) 当所で準備できる用具類

★楽 器 類：ギター、電子オルガン、アコーディオン、キーボード、和太鼓

★放送用具：ワイヤレスマイク、アンプ、CD・MDラジカセ、延長コード

★照明用具：投光器、投光器台、ペンライト、懐中電灯

★衣 装 類：火の神用衣装（頭巾・着物・袴・杖・面・腰蓑・草履）

火の巫女用衣装（袴・白衣・草履・聖火台）

★点火用具：トーチ（詰め替え用古タオル・軍手は各自で準備）、ろうそく、ろうそく台、営火台、大しよく台、灯油、たき物、巫女用聖火台